



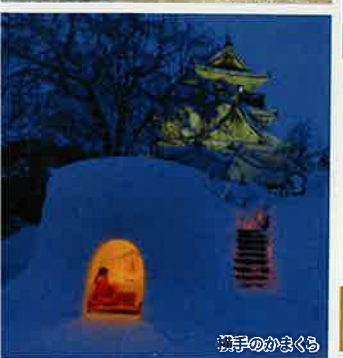
白神山地



きりたんぽ



男鹿のナマハゲ



横手のかまくら



西馬音内盆踊り

地域力の強化に向けた

全国市町村長 サミット

2025 in 秋田

2025
10/27^月 28^火

ハイブリッド開催 会場／オンライン

参加市町村長
募集



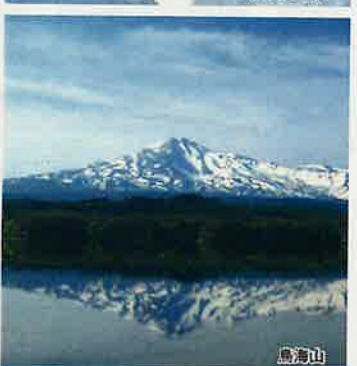
© 2015 秋田県んたっち



大曲の花火



森吉山の樹氷



黒海山



秋田芋焼酎まつり

27日
会場

あきた芸術劇場ミルハス

〒010-0875

秋田県秋田市千秋明徳町2-52



主催

総務省・秋田県

後援

全国市長会・全国町村会・
秋田県市長会・秋田県町村会

お申込みについて

参加対象者

市町村長、自治体職員、一般参加者等

参加形態

会場参加またはオンライン参加

参加費

10/27
サミット

会場

サミット：無料
市町村長交流会：6,600円
(税込・当日現金)

オンライン

無料

10/28
現地視察

昼食代1,500円 (税込・当日現金)

注意事項

■一般参加者の方へ

※市町村長交流会・現地視察については、市町村長等自治体関係者のみの募集となります。

※会場参加枠には限りがあるため、自治体関係者の方を優先してご案内いたします。一般参加者の方には、オンラインでのご参加をお願いする場合がございますので、あらかじめご了承ください。

■自治体関係者の方へ

※現地視察については、参加人数に限りがございます。申込み多数の場合は参加いただけない可能性もありますので、あらかじめご了承ください。申込み締切後メールにて結果をご連絡いたします。

お申込みから当日までの流れ

1

専用サイトより
お申込みください

専用サイトは下記URL
またはQRコードから



<https://summit2025-akita.studio.site>

手話通訳や要約筆記が必要な方は
お申し出ください

申込み締切日

2025年10月3日(金)

2

お申込み後、参加証
等が送付されます

会場

お申込みの際に、ご登録
いただいたアドレスに
参加証等をお送りします。

オンライン

お申込みの際に、ご登録
いただいたアドレスに当日
のURLをお送りします。

3

サミット当日、会場・
オンラインにて受付

会場

事前にメールでお送りして
いる参加証を持参し
受付でご提示ください。

オンライン

事前にメールでお送りして
いる当日のURLから
アクセスしてください。

※申込み等の個人情報については、本サミットに係る目的以外での利用はいたしません。

専用サイトより
申し込みできない場合の

申込み窓口

「全国市町村長サミット2025 in 秋田」事務局
(株式会社 PoliPoli)

TEL

070-6650-2038

E-mail

mayors-summit@polipoli.io

その他お問い合わせ先

総務省 地域振興室

TEL

03-5253-5534

全国市町村長サミ

人口減少社会の到来、地域間格差の拡大、コミュニティの脆弱化など難しい課題に直面している中であって、日本経済の再
行うことを通じて、地域活性化の一層の進展・普及を図ることを目的に、「全国市町村長サミット2025 in 秋田」

2025年10月

27日

月曜日

サミット

13:00-13:20

開会挨拶

総務省挨拶／秋田県挨拶

13:20-14:20

基調講演

人口減少時代における地域経済のあり方 ―これからの労働市場で何が起きるのか―
坂本 貴志 リクルートワークス研究所 研究員・アナリスト

14:40-17:20

分科会

2つのテーマの分科会に分かれ、各分科会のコーディネーターと発表される市町村長の方々に、取組事例の発表と意見交換を行っていただきます。

第一分科会 二地域居住・関係人口

コーディネーター

指出一正
ソトコト編集長

事例発表者

荒川 滋 秋田県五城目町長
渡辺 竜五 新潟県佐渡市長
百瀬 敬 長野県塩尻市長
白石 祐治 鳥取県江府町長

第1部

14:40-15:50

第一分科会：会場1
第二分科会：会場2

第2部

16:10-17:20

第一分科会：会場1
第二分科会：会場2

第二分科会 地域運営組織

コーディネーター

若菜 千穂
特定非営利活動法人
いわて地域づくり支援センター 常務理事

事例発表者

田川 政幸 秋田県三種町長
倉成 淳 岩手県奥州市長
田中 幹夫 富山県南砺市長
青野 高陽 岡山県美咲町長

17:40-18:50 市町村長交流会

市町村長等による意見交換、情報交換の場として交流会を実施します。
(参加費6,600円(税込・当日現金))

視察の流れ ※参加人数により視察順が入れ替わる可能性があります。

昼食代1,500円(税込・当日現金)をいただきます。

8:30

あきた芸術劇場ミルハス 出発

9:30-10:30

視察 風と海の学校 あきた

10:35-11:35

視察 男鹿のまちづくり拠点(男鹿駅周辺)

11:40-12:25

昼食 道の駅おがなまはげの里オガーレ内レストラン

13:25

終了(秋田駅)

13:55

終了(秋田空港)

2025年10月

28日

火曜日

現地視察



ット2025 in 秋田

生に向けて、地域の活性化を図っていくことが求められています。このため、全国の市町村長等が一堂に会して議論・交流を開催いたします。開催にあたり、全国の市町村長、自治体職員や市民の方々等の一般参加者を募集いたします。

基調講演

人口減少時代における地域経済のあり方 ―これからの労働市場で何が起きるのか―

さかもと

たかし

坂本 貴志 様

リクルートワークス研究所 研究員・アナリスト

一橋大学国際公共政策大学院公共経済専攻修了後、厚生労働省入省。社会保障制度の企画立案業務などに従事した後、内閣府にて官庁エコノミストとして「月例経済報告」の作成や「経済財政白書」の執筆に取り組む。三菱総合研究所にて海外経済担当のエコノミストを務めた後、2017年10月よりリクルートワークス研究所に参画。

第一分科会

二地域居住・関係人口

コーディネーター

さして

かずまさ

指出 一正 様

ソトコト編集長

1969年群馬県生まれ。上智大学法学部国際関係法学卒業。島根県「しまコトアカデミー」メイン講師、兵庫県「ひょうご関係人口創出拡大・絆プロジェクト」総合監修、福島相双復興推進機構「ふくしま未来創造アカデミー」メイン講師、秋田県鹿角市「かづコトアカデミー」メイン講師、静岡県「地域のお店デザイン表彰」審査委員長、群馬県庁31階「ソーシャルマルシェ&キッチン『GINGHAM』」プロデューサーをはじめ、地域のプロジェクトに多く携わる。内閣官房、総務省、国土交通省、農林水産省、環境省などの国の委員も務める。経済産業省「2025年大阪・関西万博日本館」クリエイター。最新刊は『オン・ザ・ロード二拠点思考』（ソトコト・ネットワーク）。

第二分科会

地域運営組織

コーディネーター

わかな

ちほ

若菜 千穂 様

特定非営利活動法人 いわて地域づくり支援センター 常務理事

特定非営利活動法人いわて地域づくり支援センター常務理事。1972年茨城県取手市生まれ。1998年岩手大学大学院農学研究科（修士課程）終了後、札幌で民間コンサルタント会社に入社。2003年岩手大学連合農学研究科（博士課程）に社会人入学し、2005年博士（農学）取得。同年現職就任。専門は農山村地域における住民主体の地域づくりや地域運営組織形成など、農村交通づくりの支援を行う。岩手県内の地域コミュニティで、自分たちの課題を自分たちで解決できる力（＝地域力、実践力）をつけていく支援に取り組む。また、農山村地域におけるくらしの足問題にも取り組み、公共交通調査やデマンド交通などの実施等を含めた地域交通の再構築もサポートする。

1. 風と海の学校 あきた

秋田県沖の海域は、再生可能エネルギーとして特に注目されている洋上風力発電の導入に適しており、全国に先駆けた取組が進められています。

「風と海の学校 あきた」は、2024年4月に秋田県立男鹿海洋高等学校実習棟内に開設した洋上風力発電事業に関する訓練センターです。年間1,000人程度の訓練修了生輩出を目指し、10mの大水深プールを活用した飛び込み訓練や模擬設備での風車への移乗訓練のほか、最新型シミュレータを使った船員向けCTV*操船訓練などを提供しています。

本センターは、洋上風力関連の人材を輩出するという関わりのみならず、

教育・人材育成に資する地方創生の拠点となることや、産官学との連携により本センターを核とした有意義な活動を広めることも目的としています。例えば、最大の特徴である「学校内に訓練センターを開設する」という点を活かし、男鹿海洋高校の生徒へのシミュレータ開放や、近隣の小中学生を対象とした施設見学会を実施しており、洋上風力や海事産業に対して興味を持つ学生が増えることが期待されます。

本視察においては、消火訓練設備や生存訓練施設（プール）の見学、CTV操船シミュレータの体験などの施設見学プログラムを実施します。

※CTV: 洋上風車と陸を結ぶ作業員輸送船 (Crew Transfer Vessel)

2. 男鹿のまちづくり拠点（男鹿駅周辺）

市内周遊観光による交流人口の拡大や地域活性化の拠点を担う複合観光施設「道の駅おが（愛称：なまはげの里オガレ）」とJR男鹿線の終着駅として「東北の駅百選」に選定されている男鹿駅の移転開業により、駅周辺エリアでは新たな人の動きが生まれはじまりました。この流れを確かなものとし、駅周辺エリアの求心力を高め、近隣の商店街はもとより市内全域に経済効果が波及するよう、男鹿市では、両施設の間に位置する鉄道用地を新たに取得し、多くの人々の交流の場として男鹿駅周辺広場を整備しました。

男鹿駅周辺広場においては、「男鹿日本海花火」や「なまはげ柴灯まつり」

など、市の核となる誘客イベントのサテライト会場として多くの人々が集うほか、民間事業者や市民によるイベントも数多く開催され賑わいが創出されています。

男鹿市では、男鹿駅周辺エリアをまちづくりの拠点と位置付け、多様な主体による交流や地域課題の解決に向けたチャレンジの取組を後押ししながら、複合観光施設の整備当初に掲げた、「～住んでよし、訪れてよし」の男鹿の共創～の実現に向けた取組を推進しています。